

平成二十九年入学試験問題（推薦入試Ⅱ）

小 論 文

教育学部 学校教育教員養成課程

小学校教育コース 国語教育専修

注 意 事 項

- 一、受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
- 二、解答は必ず解答用紙に記入すること。問一は表面に、問二は裏面に解答すること。
- 三、解答用紙の他に、下書用紙を配付するので、取り違えないよう注意すること。
- 四、解答時間は、一二〇分である。
- 五、縦書き、鉛筆（シャープペンシルを含む）書きにすること。
- 六、解答する際の字体は楷書とし、ていねいに書くこと。

非公開

次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

問題

非公開

(坂東眞理子、『美しい日本語のすすめ』、小学館新書、二〇〇九年、二二～二六ページ、抜粋・一部改変)

問一 現在の社会では、バックグラウンドの異なる児童がいる教室は少なくありません。このような状況を踏まえ、あなたは小学校教員として、教室をどのようなコミュニケーションの空間に育てたいですか。四〇〇字程度で述べなさい。

問二 傍線部にあるような日本語の特徴を活かして、生活とことばの結びつきを大切にしたい。四〇〇字程度で述べなさい。

平成二十九年入学試験問題（推薦入試Ⅱ）

小 論 文

教育学部 学校教育教員養成課程

小学校教育コース 国語教育専修

出題の意図

本専修では、国語科の世界の豊かさを生かして、多様な素材文を提供し、受験生が付け焼き刃でない「国語科へのこだわり」「国語への思い」を持っているかどうかを、小論文試験において測りたいと考えている。

これまで出題してきた試験問題を振り返ると、平成二十五年度は琉球方言のもつ美しさと生命の輝きについて、平成二十六年度は短歌における「オノマトペ」の効果について述べた素材文を、出題文とした。また平成二十七年年度には、「学力」に関する一般的な教育論を素材文とし、出題において「国語教育」に適用させることで、国語教育専修らしさを出した。昨年度は、「ものの言い方」の地域差を通じて、地域文化の保存・継承と教育・しつけの問題について深く考えさせる素材文を用意した。

本年度は、あいまいで微妙な表現を楽しむ社会と、はつきりものを言う社会との比較を通じて、バックグラウンドの異なる人々が共生する社会について深く考えさせる素材文を用意した。

近年の小学校においては、文化的背景が異なる児童のいる教室が全国的に増加の傾向にある。問一では、このような教室の状況を踏まえた学級経営について考えさせる。また問二では、本文のような日本語の特徴から、ことばと生活の結びつきを大切にした国語の授業を構想させる。これらの問から、論理的な記述力を評価し、「話すこと」の教育観を通じて国語教育への構想力を測りたい。

まさにこの入学試験問題は、受験生が、教育学部学校教育教員養成課程のアドミッションポリシーにおける「1 教員として主体性を持ち、子ども及び社会と関わっていききたい人」「2 教育の理念と実践を広く深く学ぶ意欲のある人」に適う人材であるかどうかを確認しうる内容となっている。